

集団の中で配慮を要する子どもに対する 支援のヒントと関係機関の連携

株式会社LITALICO
吉田有里 YOSHIDA Yuri
yuri.yoshida@litalico.co.jp



わたし:

吉田 有里 YOSHIDA Yuri

臨床発達心理士 / 博士 (教育学)

- ・ LITALICOジュニア
HRラーニングサポートGマネージャー
シニアスーパーバイザー
- ・ 専門は読み書き困難児の支援
- ・ やりたいことは
地域のネットワークづくり
- ・ 3歳の娘がいます



もくじ

1. 自己紹介 / LITALICO紹介
2. 子どもの困りごとの捉えかた
3. 保育場面での対応のヒント
4. 地域の中にある関係機関と連携方法
5. 事例のご紹介
6. 質疑応答



LITALICOについて (理念)

LITALICO
りたりこ

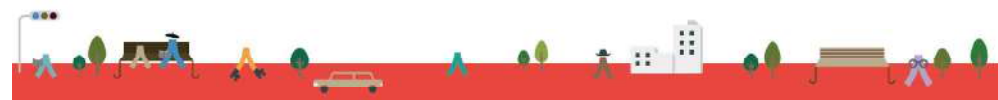
「LITALICO」は日本語の利他と利己を組み合わせた造語です。
社会の幸せと自身の幸せをつなげる関係性を築くことで、
利他と利己の両方を実現する意味が込められています。

事業内容

1. 学習塾及び幼児教室の運営事業
2. 児童福祉法に基づく障害児支援事業
3. 障害者総合支援法に基づく就労支援事業
4. インターネットメディア事業
5. その他

事業所数

- 就労支援サービス LITALICOワークス 82拠点
- ソーシャルスキル&学習教室 LITALICOジュニア 111拠点
- IT×ものづくり教室 LITALICOワンダー 17拠点
(2020年3月時点)



LITALICOのビジョン

障害のない社会をつくる



障害は人ではなく、社会の側にある

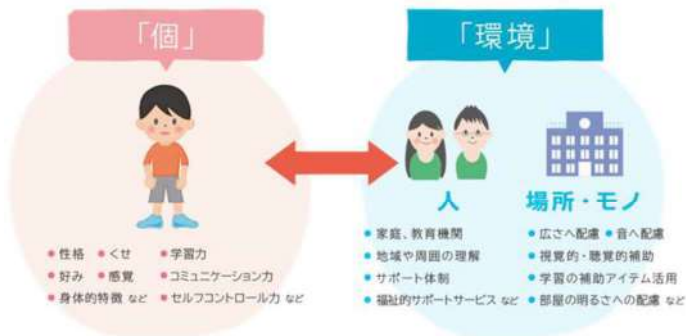
社会にある障害をなくしていくことを通して

多様な人が幸せになれる「人」が中心の社会をつくる



困りごとのとらえ方

困りごととは
あなた(個)とまわり(環境)の相互作用
によって、うまれます。

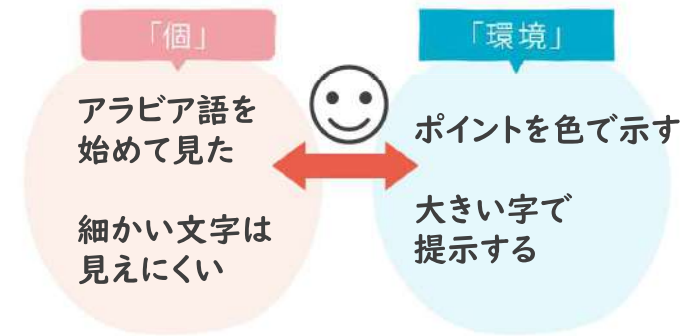


LITALICOの事業

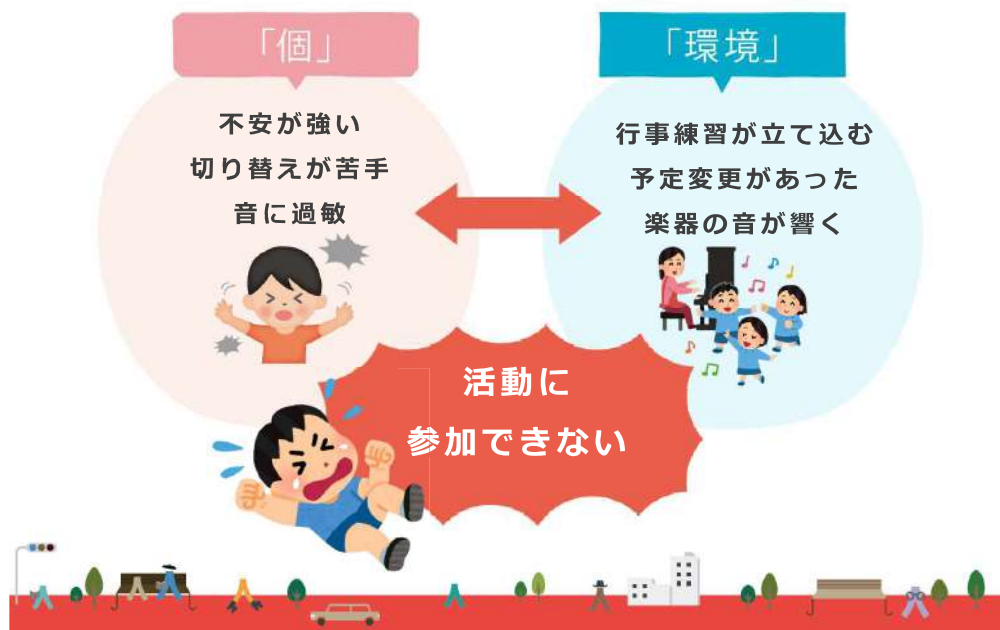


子どもを主語に捉えると…

環境の要因と
うまくかみ合わないと困りごとがおこる。
うまくかみ合えば、困らない。

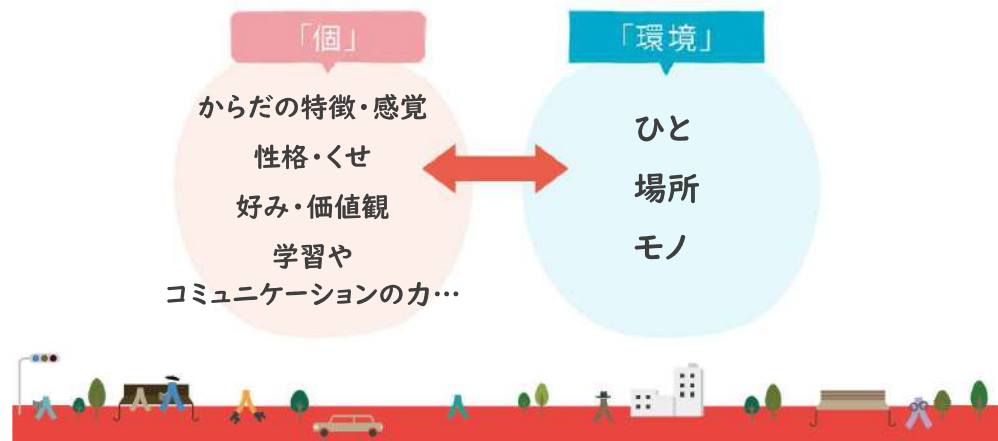


子どもを主語に捉えると…



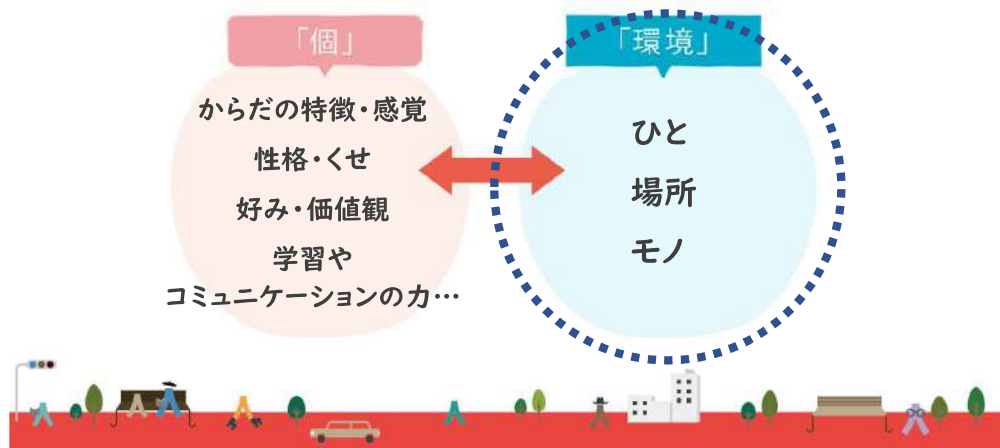
多様な子どもたち

個人が持つ特徴・背景はとても多様。
みんなが同じ環境で学びやすいとは
限りません。



わたしたちにできること

子どもを主語に捉えて個人の特徴を把握し
環境(私たち自身を含む)を整えることで
ポジティブな相互作用を作りましょう。



コラム* 感じ方・捉え方

乳幼児期の困りごとの背景には
個人の感じ方・捉え方の違いが
大きく影響していることもあります。例えば…



コラム* 注意特性

注意＝刺激に意識を向けること
それぞれの働きに得手不得手がある

<p>特定の対象を選んで注意を向ける働き</p>  <p>(注意の選択)</p> <p>たとえば…… 騒がしい中でも先生の話を聞き取ることができる</p>	<p>選んだ対象に注意を持続する働き</p>  <p>(注意の持続)</p> <p>たとえば…… 先生の話を最後まで聞き続けることができる</p>	<p>必要に応じて注意を向ける対象を変える働き</p>  <p>(注意の転換・配分)</p> <p>たとえば…… 遊んでいる最中でも声かけに気づくことができる</p>
---	---	---



支援が難しい子どもへの支援で陥りがちな罠

どうしたら教室にいられる？
どうしたら暴力暴言が止まる？
どうしたらこだわりをなくせる？

問題行動をなくすという考えが
第一に来ていませんか？



コラム* 感覚特性

7つの感覚
過敏(鈍感)と刺激への反応タイプが
気になる行動の背景にあることも



感覚探求
感覚の感じ方が鋭敏なため、さらに強い刺激を求め、衝動的に刺激への反応を示すことがある。

感覚回避
感覚の感じ方が鈍感なため、刺激に対して過剰に反応してしまったり、注意を散漫にする行動をとることがある。

低覚醒・低反応
感覚の感じ方が鈍感なため、活動する時に必要な刺激が不足し、ぼんやりしている状態である。

感覚過敏
感覚の感じ方が鋭敏なため、環境の変化やちょっとした刺激が極度に感じられることがある。

“問題行動”はその子の唯一の表現手段

もしかしたら
傷つきや失敗への不安
わからないことへの混乱
認めてほしいという願い かもしれません



問題行動を止める

→いまできていることに目を向ける
&代わりになる行動の獲得を促す



その子の願いに目を向ける

難しいことが多くて
いつも緊張するんだ

せっかくできそうだと
思ったのに!

失敗ばかりで
気持ちがぐさぐさする



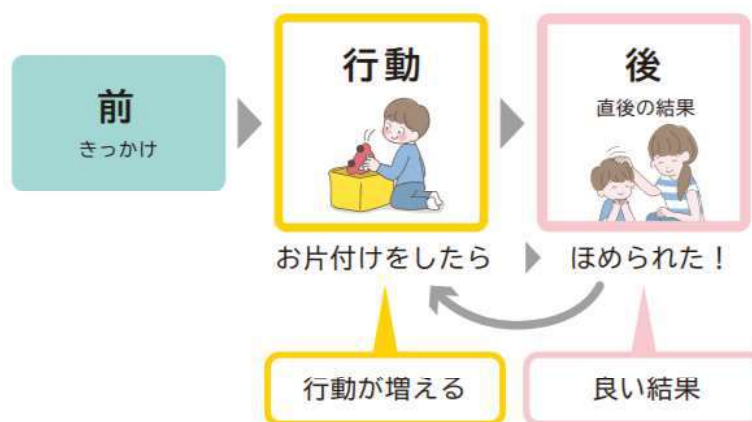
安心して過ごしたい
みんなに認められたい



①嬉しい関わりを増やす

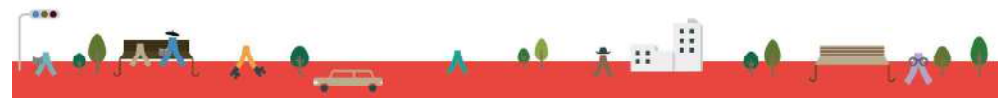
うまくかみ合うためのコツ①

=嬉しい関わりでよい行動を増やす



保育場面での対応のヒント

- ①嬉しい関わりを増やす
- ②整え上手で安心できる環境をつくる



①嬉しい関わりを増やす

嬉しい関わりを活用する2つのポイント

- ①すぐに関わる
- ②ハードルを下げて関わる



①嬉しい関わりを増やす

①すぐに関わる

行動をしたすぐあとにほめると
ひとはメリットを感じやすく、もう一度やってみよう
という気持ちになりやすいです



ワーク: 保育場面でどう活かす?

クラスのなかで対応が難しいなと思うお子さまを
思い浮かべましょう。



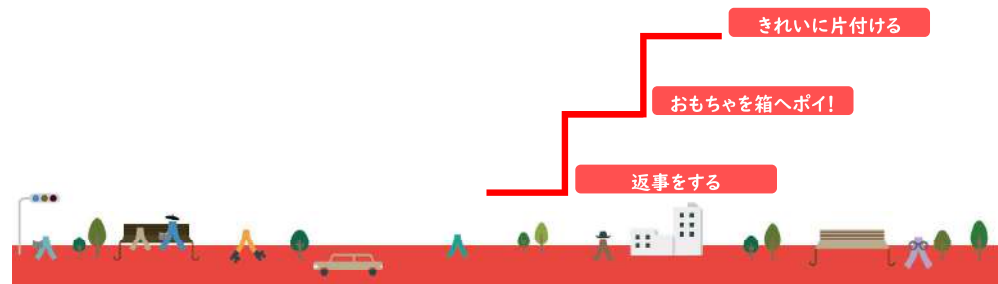
- ①その子の嬉しい関わりを思い出し、書きましょう
- ②具体的な場面で活用できそうなポイントを見つけ、メモしましょう



①嬉しい関わりを増やす

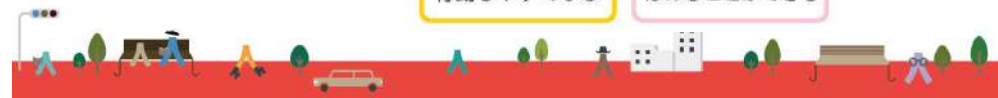
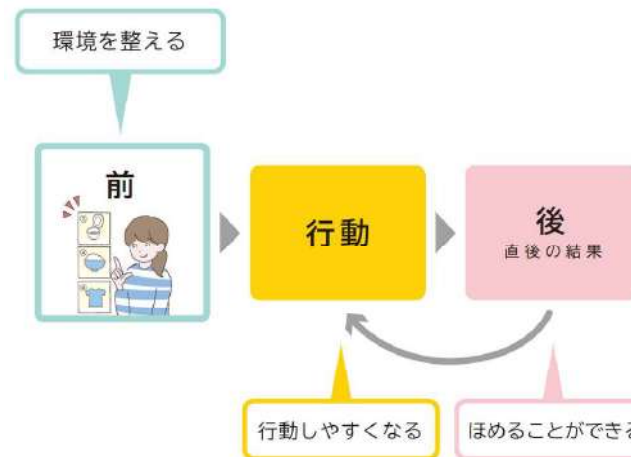
②ハードルを下げて関わる

一見失敗のように見えても、ハードルをさげると
成功体験につなげることができます。
次の「やってみよう」を引き出すために
小さなほめポイントを見逃さないように!



②整え上手で安心できる環境をつくる

うまくかみ合うためのコツ②
=**整え上手**で安心できる環境をつくる



②整え上手で安心できる環境をつくる

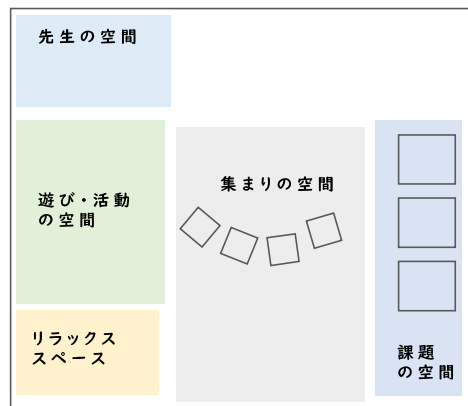
整え上手で安心できる環境をつくる
ための2つのポイント

- ①わかりやすい枠組み
- ②静かで穏やかな環境



②整え上手で安心できる環境をつくる

例：場所と目的をわかりやすく

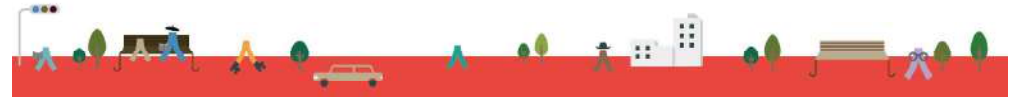


②整え上手で安心できる環境をつくる

①わかりやすい枠組み（構造化）のポイント

- ・場所と目的
- ・ルールやマナー
- ・時間や予定
- ・活動の流れ などについて

具体的に目に見える形で構成する・伝える



②整え上手で安心できる環境をつくる

例：マナーや時間の流れを可視化する・区切る



②整え上手で安心できる環境をつくる

②静かで穏やかな環境のポイント

- ・刺激を減らす
- ・時間と空間にゆとりを持つ



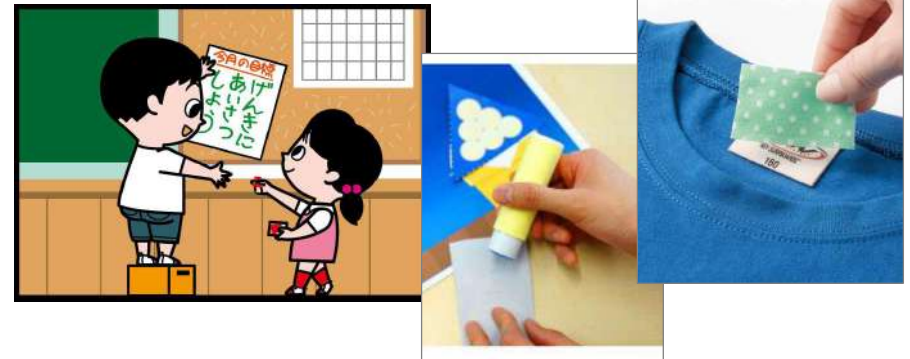
②整え上手で安心できる環境をつくる

例：落ち着くための時間・空間の確保



②整え上手で安心できる環境をつくる

例：刺激を減らす



ワーク：保育場面でどう活かす？

クラスのなかで対応が難しいなと思うお子さまを
思い浮かべましょう。



- ①その子とかみ合っていないのはどちらでしょう
【わかりやすい枠組み】【落ち着ける環境】
- ②クラスで取り入れられそうなポイントがあれば
メモしましょう



地域の中にある関係機関

まずは

- ・自治体の担当課（保育課・障害福祉課など）に相談
- ・「自治体+発達支援」で検索

- ・児童発達支援センター/事業所
- ・保健所/保健センター
- ・特別支援学校
- ・発達障害者支援センター
- ・児童相談所
- ・相談支援事業所



保健所/保健センター

- ・都道府県・指定都市等に設置
- ・公衆衛生・精神保健に関する普及啓発や相談支援を実施

※保健所は広域的・専門的サービスを実施

※保健センターは身近な保健サービスを提供

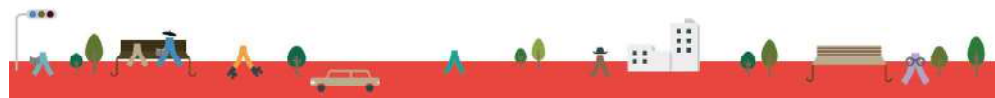


児童発達支援センター/事業所

- ・障害保健福祉圏域ごとに設置
- ・主に未就学の障害児に対する発達支援、家族支援、保育所等への後方支援を実施

※児童発達支援センターは地域の中核的療育支援施設

※児童発達支援事業所は身近な療育の場

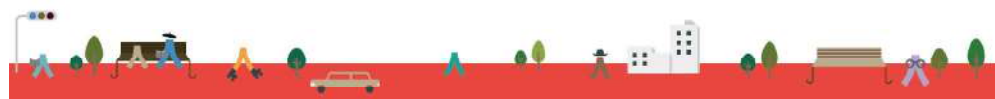


特別支援学校

- ・都道府県・指定都市等に設置
- ・特別支援教育のセンター的機能として相談・情報提供、関係機関等との連絡調整など担う

※特に幼稚部設置のある特別支援学校などは

未就学児の発達に関わる相談を受けてもらえる可能性あり



発達障害者支援センター

- 都道府県・指定都市単位で設置
- 発達障害児（者）への支援を総合的に行う

参考1) 国立障害者リハビリセンターHP内、
発達障害情報・支援センターについてのページ

参考2) 発達障害者支援センター一覧



相談支援事業所

- 都道府県・指定都市等に設置
- 公衆衛生・精神保健に関する普及啓発や
相談支援を実施

※基本的には障害福祉サービスを利用（検討）する児への
相談に対応、保護者への紹介窓口として本研修でご紹介

児童相談所

- 都道府県・指定都市単位で設置
- 相談機能として、子どもに関する相談を受け、
アセスメント、方針策定、関係機関との調整を実施、
一貫した子どもの援助を行う

事例Ⅰ：市の巡回相談

市から園へくる案内で巡回相談に申込
学期に1回訪問・観察・助言をもらう

※巡回相談事業の目的：

子どもやその親が集まる施設・場に巡回等支援を
実施し、障害が“気になる”段階から支援を行うため
の体制の整備を図り、保育所等訪問支援等との連
携により、発達障害児等の福祉の向上を図る

事例1：市の巡回相談

保育室に入れないAちゃん（3歳）

- ・登園時に母子分離泣きあり
- ・分離後も保育士がついていないと泣き、保育室への入室を拒む／たびたび抜け出す

巡回相談での観察・助言

- * 泣く／抜け出すの要因分析
- * 本児に伝わる視覚支援についての助言
- * 保育室内に個別スペース設置の助言



事例2：保育所等訪問支援事業

保護者と面談、連携

保護者から相談支援事業所・実施事業者へ相談

園へは月2回程度、訪問支援員が来園、観察・助言をもらう

保育所等訪問支援事業の目的：

保育所等訪問支援を通して、普段通所している場所での集団適応を支援する（直接支援・間接支援）



事例2：保育所等訪問支援事業

集団行動が苦手なBさん（5歳）

- ・朝の集まり、給食準備、行事練習など拒否
- ・園では加配職員を配置して個別対応



保育所等訪問支援での支援

- * 間接支援①：拒否する要因を分析して具体的方法を提案
- * 間接支援②：加配職員の方へ介入ポイントをお伝え
- * 直接支援：本児への関わり（※加配職員への見本として）



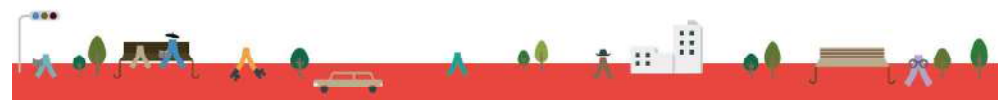
事例3：児童発達支援事業所との連携

児童発達支援を利用されている保護者と面談、連携
保護者から事業所へ相談

基本的には園での困りごとを踏まえて
事業所での支援に活かす

関係機関連携の目的：

子どもの主となる生活場面での様子を知ること、
児童発達支援事業所での支援に活かす



事例3：児童発達支援事業所との連携

ことばでのやりとりが難しいCさん(2歳)

- ・知的障害の診断あり、言語表出が喃語程
- ・身辺自立もゆっくりで加配職員が全介助
- ・「どこまでやらせていいか…」



児童発達支援事業所との連携

- * 事業所でのコミュニケーション方法について共有
- * 家庭・事業所で食事・着替えを練習し、できるようになった部分を園でも取り組めるように随時共有

